

| | |
|--------|-------------|
| 長田町小学校 | 学びの基盤づくり推進校 |
|--------|-------------|

1 研究の重点と具体的な取組

学校研究とからめ、児童が主体的に学習に取り組み、自身の考えに変容が実感できる授業を行うことで、学びの基盤を育成する。

(1) 重点1 「考えたい」を引き出す手立ての工夫

本時における児童のゴールの姿を明確化、導入・問題提示の工夫、学習計画や学習問題との関連づけ、課題の言葉を厳選等の方法により、児童が主体的に考えたいくなる効果的な手立てを研究する。



(2) 重点2 「伝え合いたい」を引き出す手立ての工夫

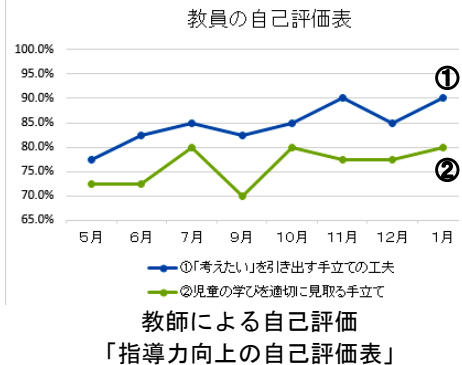
児童と教師、児童同士で伝え合う目的の共有、考えの見える化、児童の思考を深める発問等の有効な手立てを明らかにする。

(3) 重点3 児童の学びを適切に見取る手立て

まとめ・ふり返り、発言、作文、成果物等に、どんな言葉があったり書いてあったりすれば「変容した」と捉えるのか、適切な評価方法を研究する。

2 取組の検証

- (1) 教師相互による授業参観・整理会及び授業のふり返り通信による意見交流
- (2) 外部講師による指導・助言
- (3) 毎月の指導力向上の自己評価結果 (右図参照)



3 成果と課題

(1) 成果

- ・課題の言葉を厳選し、児童と共有して作成したものをノートに毎時間しっかりと書き留めさせたことで、学習の見通しが持てるようになってきた。
- ・毎月徹底する週間を設けたことで、児童と共に学習規律を確認することができた。
- ・コロナ禍で可能な範囲ではあるが、必要感のあるペア・グループ活動を設定することができた。
- ・定期的に「ナイスノート」を児童がいつでも目にできる場所に掲示したことで、教師は「変容」を常に意識した授業をすること、児童は「変容」を意識したふり返りを書く啓発を行えた。

(2) 課題

- ・単元のゴールの提示が明確ではなく、目指す姿の解釈が教師と児童の間でずれることがあった。
- ・ペア・グループ学習が教師側の主導で、全体交流のための交流になってしまいうことがあり、児童に必要感を持たせた交流ができないことがあった。
- ・グループ学習において、個々の児童の評価の見取り方に課題が見られた。
- ・ノートやワークシートで、考えの変容を見取る観点で教師で共通理解することが十分ではなかった。

